

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627		
自己評価作成日	令和5年11月20日	評価結果市町村受理日	令和6年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/1/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosoCd=2172200210-00&ServiCeCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりがその方らしく暮らしていただける環境づくりに配慮し尊厳が守られるケアを念頭に置き、支援に努めている。また重症化の状況にも対応しご家族様や主治医と連携を図りながら終身まで看取らせていただく体制づくりをしている。常日頃より家族様からの相談や要望にも耳を傾けてご本人のみだけでなくご家族様にもご満足いただけるケアが提供できるように努めています。職員を大切に働きやすい職場づくりにつとめている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者が最期まで、少しでも自分らしく、好きなものを食べ、好きなことができるような家庭的雰囲気作りに努めている。週の半分は手作りを提供し、誕生日会でのリクエストに応じた食事が楽しめる。勤続年数が長い職員が多く、利用者、家族と信頼関係が構築されている。管理者は利用者職員との体調や行動の変化に留意し、それぞれが健康で過ごせようとして支援している。管理者のリーダーシップで職員が一丸となり、看取り介護に取り組まれている。最期まで本人の意向を尊重し、穏やかに過ごすことのできる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月会議において(現在はユニット毎に行っている)運営理念、職員の心得を共有できるように唱和(黙読)し実践できるように努めている	法人の理念以外に、毎年ユニット毎にチーム目標と個人目標を作成している。ユニットごとの願いを会議で検討し、具体的な職員の行動目標について検討している。年度末には評価を実施し、次年度の目標作成に役立てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している、近くの小学校が閉校になるので最後の運動会に参加、今年度はまだ近くの保育園と交流できていないが来年度は交流会を再開していきたい	地域の清掃活動や近隣の小学校の運動会に参加している。保育園と連絡をとり、行事に参加する予定を立てている。近所の米屋を利用したり、自治会長から野菜の差し入れを頂いたりし、地域との交流を図っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ5類に移行後運営推進会議を再開でき地域の方々に活動状況の報告、事故報告する事でご意見をいただきサービスの向上に繋げていける様つとめている	運営推進会議には、家族、市役所、消防署、駐在所などの職員が参加している。ヒヤリハット、身体拘束防止についての報告を行い、対応方法の助言を受けている。助言内容は職員会議で共有されている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議が再開でき、高齢介護課、消防署幹部、警察の方に出席頂き活動状況を把握していただいている。困難事例の相談や情報提供を行い連携を深めている	市役所より認知症キャラバンメイト、キッズサポーター講師の依頼を受け、活動している。市役所職員からは困難事例の相談を受け、運営推進会議以外でも情報交換を行っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を通して勉強会を行っている。毎月会議において身体拘束をしていないか検討会を行っている。ご利用者様を拘束しない対応を心掛けている	身体拘束適正化委員会を毎月開催している。身体拘束以外にも、スピーチロックの弊害について、職員会議で話し合われている。運営推進会議でも、参加者から意見をもらい、身体拘束に該当しないか確認している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で学んだ内容を参考に、職員会議で勉強会を実施し、正しい知識を理解するように話し合いを重ね検討するような管理体制、職場風土の構築に取り組んでいる。虐待の芽チェックシートで確認し日々のケアを振り返っている	虐待の芽チェックリストを作成し、職員全員で自己点検を行っている。管理者は職員の体調、ストレスが無いかを確認し、虐待防止を意識している。職員の目に留まる場所に、虐待防止のポスターを掲示している。	

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様もみえる。勉強会をしている。必要が生じた場合は日常生活支援事業や成年後見制度が利用できるように支援していく		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の疑問点はいつでも対応させていただき契約内容に変更がある場合はその都度説明し同意を得ている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。ご意見をいただいた時は職員間で共有して運営の向上に取り組んでいる。ご家族様アンケートも実施している。運営推進会議にその結果等の報告もしている	年に1回、家族にアンケートを郵送で実施している。要望などには個別に返答をしている。運営推進会議の会議録と、活動状況がわかる写真付きの便りを家族に送付し、関係性作りに努めている。面会時も積極的に家族と対話する時間を設けている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見がトップに反映するよう意見の出しやすい職場づくりに心がけている。無記名によるハラスメント調査を行いアンケートには意見が書き込めるようにされ直接幹部に届けられ意見が反映されるようにしている	掃除がしやすいように、職員の意見を取り入れ、キャスター付きのベッドを導入した。管理者は職員に意見が言いやすいように、業務の中でも会話する機会を意識している。ハラスメントが無いが、無記名のアンケートを実施し、職員の要望を確認している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や職員がやりがいをもって働ける職場を目指して、一人ひとりの生活環境を理解して勤務体制を整え、キャリアアップが出来る様に指導している	職員の家庭事情などに配慮し、休み希望や勤務時間の変更に応じている。業務内容も話し合っていて決めている。法人から勤務年数に応じての表彰もあり、永年勤続の職員も多い。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験やキャリアに応じて研修の参加を促し、全職員がスキルアップできるように努めている	新人教育プログラムにて、新人教育体制がある。内部研修は各委員会で計画し、法人全体で実施されている。外部研修は、職員の希望を確認し、費用助成を受けて参加できる取り組みがある。	

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	執行部会議での毎月の会議や勉強会を実施することで情報交換できる場がある。2ヶ月に1度の市のケアマネ会議の参加により同業者との交流もしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	顔なじみで毎日一緒に生活している家族の様に支えて支えられる関係となっている。出来ることはして頂いて生活を楽しんで頂けるように努めている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で雰囲気やしぐさ、言葉、動作などから思いや意向の把握が出来る様に信頼関係の把握に努めている	入所時に、家族や本人から嗜好、生活習慣、趣味や要望を聞き取り、記録にして職員間で共有している。普段より、利用者のしぐさ、表情、行動の変化を観察している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族様に日々の生活の中で思いや意見を職員が情報を共有し意見交換を行っている。それらをもとに介護計画を作成するように努めている	担当の介護職員が中心となり、日々の様子やプランについて、ケア会議で話しあっている。家族の意向は、直接面会時確認している。来所の難しい家族には、意向を書面で自由に書いてもらい返送してもらう。毎月のモニタリングを実施し、状況の変化に対応している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに食事量・水分量・排泄状況等身体的状況・日々の暮らしの状況を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている	状況や利用者の意向、変化などは1日2回の申し送りで情報共有している。会議で検討された内容は、会議記録を回覧している。管理者は職員の理解度を確認し、職員ごとに補足することもある。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族様の状況に応じて送迎や介護タクシーの導入等個別の満足度を高めるような柔軟な支援が出来る様に努めている	定期受診、家族で受診が困難な場合は職員が送迎、付き添いを実施している。家族より、法要や白寿のお祝いに外出希望があり、利用者を送迎し行事への参加を支援した。	

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政、消防署、民生委員、駐在所、自治会長等の参加を呼びかけ、周辺状況や支援に関する情報の交換、協力関係を築ける様に努めている		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時も入所後もご本人の気持ちご家族の希望を確認しながら、協力医療機関がかかりつけ医での継続的な医療が受けられるように支援している。状況に応じて家族に代わり受診の付き添いも行っている	かかりつけ医を継続するか、協力医に変更するかを選択できる。受診時は看護師が同行し、主治医と情報交換を行っている。家族で受診をお願いする場合は、主治医あてにFAXなどで状態を伝えている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者様が安心して治療が受けられる様医師と連絡連携をはかり、情報提供をしている。入院時でもできるだけ見舞い、早期に退院支援に結びつけられる様情報交換している	入院時、看護師より病院に情報提供を行っている。家族が退院後の生活について不安に感じることは、丁寧に説明や助言を行っている。退院時カンファレンスにも参加し、迎え入れる準備を行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について状況が変化した時など、家族と話し合いを重ねて、確認しあい、かかりつけ医、協力病院と連携を取りながら対応している	状態に変化のある度に、看護師が丁寧に今後のありうる事態などを説明している。職員は最期までできることを支援したい思いがあり、職員一丸で好物を食べてもらったり、一緒に居たい人と過ごせるようにしたりし、環境を整えている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に迅速に対応できるようにマニュアル連携網を作成し設置している。救命訓練を実施している		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場を利用して周辺の福祉施設、市町村、警察署との協力体制と、地域住民の構築に結び付けられる様つとめている	年2回防災訓練を行っている。職員間での緊急連絡訓練を夜間想定で実施した。災害避難場所に近隣の病院と協力体制を築いている。運営推進会議で、防災訓練の様子を報告し、協力を依頼している。消火訓練に自治会の方に参加してもらった機会があった。	

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である方々に尊敬の気持ちをもって接し一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに対応している	居室に小窓にはのれんをかけて、外から見えないように工夫している。プライバシー保護の研修会を定期的実施している。申し送り時は個人名が利用者に聞こえないように配慮している。	家族の一員のように、家庭的雰囲気 が保たれ良い環境であるが、信頼関係が馴れ合いの言葉にならないように配慮を期待したい。
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人が話されるひと言二言の言葉や表情から真意を汲み取りご本人に対するケアの情報共有に活かしている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方を把握したうえで、体調や天候などを考慮して過ごしていただける様に支援している		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好物を把握して季節のものを嚥下状態に応じて個別の食事形態にて提供している。誕生日食や行事食も提供する	週の半分程度、手作りおやつを実施している。利用者から受けたりクエストは、誕生日会や行事食で提供している。野菜の筋取り、土筆のはかま取りなどの下ごしらえを一緒に行っている。プランターで育てた野菜を収穫し、メニューに取り入れている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、介護記録に記入して、一人ひとりの体調等も一目で見れるようにしている。状態に合わせて食事形態、食事ペースに合わせて提供できるようにしている。体重の変化にも気を付けている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯の手入れができる方は、ご自分で行って頂きその状態にあった支援にて口腔ケアを行っている。毎月一回勉強会を行っている	毎食後、口腔ケアを行っている。月1回、歯科衛生士によるブラッシング指導、口腔ケアの勉強会がある。洗面所にはわかりやすい歯磨き方法が掲示してあり、口腔ケアに熱心に取り組まれている。	

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握してご本人の表情やサインを見逃さず迅速に対応する。昼間はトイレでの排泄支援に努めている		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個浴にご自分のペースで入浴できるようにしている。入浴剤や冬至のゆず湯、菖蒲湯等季節感も味わっていただいている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調や体力を把握して適度に昼寝を行う。休憩時間も設けたりして安眠できるよう環境を整えている		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい処方箋は職員が何時でも確認できるように設置している。利用者の状態に応じて確実に服薬できるように飲みやすさ飲むタイミングの工夫をしている	誤薬防止のため、内服について手順を定め、複数職員でチェックを行っている。薬の変更時、副作用が心配される場合などは、職員会議や申し送りで情報共有を行っている。飲みづらさがある場合は、主治医に相談し、確実に内服できるように工夫している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日のかかわりの中で気分転換も兼ねて出来る事を見つけ出して楽しみにつながるようなお手伝いをお願いしている。洗濯物たたみ、おしぼりたたみ、新聞折り等一緒に行っている	個別の趣味活動を把握し、実施できるように支援している。折り紙、携帯用ゲーム、洗濯たたみ、おしぼり作りなど、個人ごとに楽しみや日課になっていることを尊重している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や天候に合わせて散歩、エントランスでお茶会等行っている。来年の春はみんなで一緒にお花見に出かけたいと計画中です	季節の花見、近隣の公園へのドライブを実施している。春には土筆取りに出かける。家族との受診時に、外食を楽しまれる方もある。散歩は随時実施し、庭に出て気分転換することもある。	

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じない様にご家族と話し合い満足いただけるように支援している		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれたら現在は職員が出しに行っている。電話は希望により電話しやすい様に声かけし直接お話しできるよう支援している。かけられない場合は職員が支援している		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にイベントの飾りつけをして季節感を取り入れ生活感や季節感が伝わる工夫をしている。少しでも心が休まるよう努めている	中庭に植木、プランターを置き、リビングから季節感を味わうことができる。玄関には季節の手作り飾りが飾ってある。利用者同士関係性を把握し、馴染みの席になるように配慮している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所でご自分の気の合う方と近くで話せるように工夫している		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや思い出のものを部屋においていただき精神的に安定する、落ち着いて過ごしていただけるように工夫している		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や車椅子での動線確保に気を配りご本人の意向を考慮して不安を取り除き自立支援につなげられるようしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム海津 福寿苑		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627		
自己評価作成日	令和5年11月20日	評価結果市町村受理日	令和6年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index_php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2172200210-00&SerVicOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月会議において(現在はユニット毎に行っている)運営理念、職員の心得を共有出来るように唱和(黙読)し実践できるように努めている。ユニット毎に年度目標、個人目標を立てている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺の散歩に出かけている。近くの小学校が閉校になるので最後の運動会に参加、今年度はまだ近くの保育園と交流できていないが来年度は交流会を再開していきたい。近所の美容院には行っている		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ5類に移行後運営推進会議を再開でき地域の方々に活動状況の報告、事故報告する事でご意見をいただきサービスの向上に繋げていける様努めている		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢介護課、消防署幹部、警察の方に出席頂き活動状況を把握していただいている。困難事例の相談や情報提供を行い連携を深めている		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を通して勉強会を行っている。毎月会議において身体拘束をしていないか検討会を行っている。ご利用者様を拘束しないケアに取り組んでいる		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で学んだ内容を参考に、職員会議で勉強会を実施し、正しい知識を理解するように話し合いを重ねて検討する管理体制、職場風土の構築に取り組んでいる		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様もみえる。勉強会を実施している。必要が生じた場合は日常生活支援事業や成年後見制度が利用できるように支援していく		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の疑問点はいつでも対応させていただき契約内容に変更がある場合はその都度説明し同意を得ている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。ご意見をいただいた時は、職員間で共有して運営の向上に取り組んでいる。ご家族様アンケートも実施している。運営推進会議にはその結果報告もしている		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見がトップに反映するよう意見の出しやすい職場づくりに心掛けている。無記名によるハラスメント調査を行いアンケートには意見が書き込まれるようにされ直接幹部に届けられ意見が反映されるようにしている		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や職員がやりがいをもって働ける職場を目指して、一人ひとりの生活環境を理解して勤務体制を整え、キャリアアップができるように指導している		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験やキャリアに応じて研修の参加を促し、全職員がスキルアップ出来る様に努めている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	執行部会議での毎月の会議や勉強会を実施することで情報交換できる場がある。2ヶ月に1度の市のケアマネ会議の参加により同業者との交流もしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	顔なじみで毎日一緒に生活している家族の様に支えて支えられる関係となっている。出来ることはして頂いて生活を楽しんで頂けるように努めている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で雰囲気やしぐさ、言葉、動作などから思いや意向の把握が出来る様に信頼関係の把握に努めている		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族に日々の生活の中で思いや意見を職員が情報を共有し意見交換を行っている。それらをもとに介護計画を作成するように努めている		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに食事量・水分量、排泄状況等、身体的状況・日々の暮らしの状況を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じて送迎や介護タクシーの導入等個別の満足度をたかめるような柔軟な支援が出来るように努めている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政、消防署、民生委員、駐在所、自治会長の参加を呼びかけ、周辺状況や支援に関する情報の交換、協力関係を築ける様に努めている		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時も入所後も ご本人の気持ち、ご家族の希望を確認しながら、かかりつけ医での継続的な医療が受けられるように支援している。入居時に希望で協力医に変更する人もいる		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者様が安心して治療が受けられる様医師と連絡連携をはかり、情報提供をしている。入院時でもできるだけ見舞い、早期に退院支援に結び付けられる様情報交換している		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の方針を説明している。重度化や終末期について状況が変化した時など、家族と話し合いを重ねて、確認しあい、かかりつけ医、協力病院と連携を取りながら対応している		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に迅速に対応できるようにマニュアルの作成や連絡網を作成している		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場を利用して周辺の福祉施設、市町村、警察署との協力体制と、地域住民の構築に結び付けられる様つとめている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して言葉のかけかたについても会議で話し合い、ご本人の気持ちを大切に自尊心を傷付けることのないさりげないケアに心がけている		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせた声かけをして、日常の中で表情や反応を注意深く観察しながらご本人の選びやすい場面づくりをおこなっている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。その日のコンディション、その時のタイミングを見ながら希望を聞いたり相談しながら過ごしている		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事形態に合わせてお食事を楽しんでいただけるように工夫している。お誕生日、季節の料理、郷土食等楽しみながら食べていただけるようにしている		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調と一日の水分量を毎日把握している。食事量・水分量も確認している。排泄状況を確認しつつ支援方法を考えている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に沿った個別支援にて口腔ケアを行っている。歯科医院より口腔ケアの勉強会を行っている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりのできる力や排泄のパターンや習慣を把握して、トイレでの排泄や自立に向けた支援、トイレに誘導し座ることでの排泄習慣を大切にしている		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に合わせて入浴できるように努めている。気分転換できリラックスしていただけるよう入浴剤を入れている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングにて過ごしていただいている。活動を促し生活のリズムをととのえるようにつとめている。体調や体力に合わせて休憩時間を設けている		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方・効能・副作用の説明ファイルを保管し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬後は確実に服薬できたか確認している		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力が発揮してもらえるようその方のできそうな仕事をお願いして感謝の言葉を伝える。新聞折り、洗濯物たたみ、できなくなれるも声かけしては達成感を感じてもらえるように支援している		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行かないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に散歩に出かけたりエントランスにてお茶を飲んだりしている。まだまだ外出までには至っていない		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関する事はご家族様と相談しながら満足いただけるように支援している		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、家族に連絡しやすい様に声かけをおこなっている。ご自分で掛けられない方は職員が支援している		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や行事を行った写真や貼り絵、飾り物で季節を感じていただいている		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やリビングでの席は、仲の良い方、ご夫婦等くつろぎやすい雰囲気づくりにつとめている。一人で過ごしたいときなど、希望に沿うように支援している		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や思い出のものを飾ったり置くことによって、居心地よく安心して過ごして頂けるよう工夫している		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗が生じた時は、その都度職員で話し合いご本人の不安を取り除き、自立支援に繋がれるように工夫している		